

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	春光台クリニック グループホーム	評価実施年月日	2007年6月25日～7月12日
評価実施構成員氏名	小林 早苗、五十嵐光治、寺嶋美代子、大江雅子、植木美幸、小山田純子 関口和子、安曇せつ子、宮野宮子、福田月津江、齊藤暢子		
記録者氏名	小林 早苗	記録年月日	2007年7月12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	<input type="radio"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域という言葉理念に組み込んでいない。	○	理念を職員全員で考え、理念に組み込んでいく。
2	<input type="radio"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時に、理念を渡し伝えている。ミーティング時など常々、理念を念頭に行なっている。		
3	<input type="radio"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	パンフレットや通信に載せており、外部の方にも説明を行なっている。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="radio"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩など外出時に、顔を合わす方には挨拶をし来訪を呼びかけている。		
5	<input type="radio"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の敬老会、地域のお祭り、公民館の利用、町内会の廃品回収、保育園児との交流、ボランティアの受け入れを行なっている。		
6	<input type="radio"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の高齢者に声をかけて遊びに来て頂いている。介護相談も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員で参加の上、取り組んでいる。	
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	会議を行い、議事録作成し職員、家族に通知している。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	必要時、連絡を取っている。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	講習会などに参加しており、カンファレンス等で職員に説明している。	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	カンファレンス等で常々、話合っており、日常的に管理者が指導している。	○ 今後、学習会などの形で浸透させていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	十分な時間をとり、丁寧な説明を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者と職員で、意見を出してもらう場として運営会議を行なっている。また個別に話し合いを設けている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、通信を発行しており利用者の状況を家族に送付している。また、その都度状態変化に応じて電話連絡を行なっている。お小遣い帳を記入し、コピーを家族に送付している。家族会を通して報告もしている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期的に家族会を開催している。また日常的に家族とも交流を図り、場を設けている。苦情相談窓口の紹介もしており、施設内の玄関に意見箱を設置している。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に管理者と職員との間で、面談を行なっている。またカンファレンスも活用している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>馴染みの関係が出来ている職員が昼夜対応しており、必要な時間帯に職員を確保している。職員の体調不良時には勤務交代をしている。管理者はシフトに入っていないので、柔軟な対応を取っている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた研修などの計画は無いが、定期的な研修に取り組んでいる。外部の研修は内容を吟味し、有効なものを選択して参加できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議のメンバーに、近隣のグループホームのケアマネージャーに加わっていただいている。他介護保険施設などの見学を行なっている。合同学習会は、取り組んでいない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	環境はストレスの軽減を図るには不十分。職員同士の人間関係を把握する努力はしている。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の状況は管理者を通じて把握している。管理者を飛び越えて職員に働きかけるシステムはとっていない。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ず面談にて状態把握をしている。受容の姿勢にて話を聞き、信頼関係の構築に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時に、今に至るまで経過を聞き、家族側のニーズを把握している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状態に合わせた、またはニーズに合ったサービスの紹介や、必要に応じて他の事業所へ繋げる対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず見学していただいてから、入居に至っている。馴染みの関係作りの為、職員との関係を密にし、他利用者との関係作りに努めている。また、家族の来訪や知人、前サービス担当者の来訪を多く声掛けしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活するという意識を持ち、コミュニケーションを取りながら共同作業などを通じ、利用者からわからないことを教えてもらう等し、信頼関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来館時には家族と話をし、利用者の状況などを説明し、共に同じ気持ちを持っている。家族が職員と話をすることにより、ストレスを発散している様子も見受けられる。話をしやすい環境・対応をしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族会、来訪時など本人との間に入り、お互いの理解に繋げることが出来る様になっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの人の来館を受け入れ、関係が途切れないように努めている。本人が希望すれば、馴染みの場所への外出もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士で協働作業をし、一人が孤立しないように努めており、職員の配置を行っている。リビングでの席替え、バスの乗車位置など、利用者各々の性格や利用者同士の関係を把握し、集団生活を円滑に過せる様に努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後にも、相談・来訪を受けており、行事などの参加への声かけや気軽に立ち寄れる声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望・要望を受け入れていて、本人の話を聞くなどしている。利用者本位の考え方に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期段階でバックグラウンドの周知に努めている。入居後も家族や本人よりこれまでの習慣や生活状態の情報の収集を行なっている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人、その人に合った対応をしている。毎日午前中にはバイタルチェックをし、心身状態の変化の把握に努めている。個人記録により、一日の過ごし方を職員が把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランの作成には家族の意向、職員の話し合いに基づいて利用者本位のものになるように努めている。カンファレンス等で話し合い、その時に出たアイデアをケアプランの中に盛り込んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状況に応じて、ケアプランの変更や追加を行なっている。ケアプランは毎日の個人記録用紙と一緒にし、職員が把握しやすいようにしている。状況の変化に応じケアプランを変更していけるよう、常にすぐ見ることが出来る様になっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個人記録を記入している。特別な事があれば、連絡ノートを活用し職員全員に伝え、共有の意識を持ちケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院の送迎など、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	外部用通信にボランティアの働きかけをしており、ボランティアを受け入れている。公民館の図書室を利用している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容・美容サービスを受けている。図書館を利用している。他のケアマネジャーとの話し合いの場を設けている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見制度の相談等をしている。地域資源ネットワーク作りのために、関係を深めており、支援センター主催の研修会などに参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体が病院であり、利用者も長年通っていて、医師・看護師と馴染みの関係である。日常の対応を迅速に行なえている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて専門医の受診をしている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>定期的に毎週看護師が常態把握に努め、日常的な健康管理のアドバイスを受けている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した際には、家族と医療機関と逐一連携を取り、退院後の受け入れを整えている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>カンファレンス等で何度も話し合いを繰り返し、家族とも密に連絡をとり、全員で方針を共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>母体と連携を密にとれる体制がある。変化に備えての対応をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人や家族と十分に話し合いを行なっており、ダメージを最小限に抑える努力をしている。情報提供用紙によって、情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人記録などの個人情報を他利用者の目に触れる場所に置かないようにしているが、申し送りなどで他利用者の前で、失禁報告などを聞こえてしまう音量で話してしまう事がある。	○	トイレ誘導・失禁報告・更衣などはプライバシーの配慮を徹底する。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	その時々状態で声掛けに工夫し、本人の意見を引き出すように対応している。また、選択肢を持たせるなど、職員の意見を押し付けないように配慮している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のペースや習慣が出来てきているので、その中で買い物・ドライブ・畑仕事など希望があれば、その都度臨機応変に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が希望する美容室を利用している。日常の身だしなみや、外出時などPTOに合わせたお洒落をしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の希望を受け入れたり、当番の時などに一緒に準備や食事、片付けをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望に応じ、喫煙所を設けタバコを吸えるようにしている。また、お酒も本人の希望と医師・家族の了解があれば、晩酌程度可能である。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、その人に合ったトイレ誘導をすることにより、リハビリパンツから布パンツへ変更になった利用者の方もいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一対一で入浴し、ゆっくりと会話を楽しんでいる。お湯の温度なども、本人の希望にあわせており、入浴剤も使用している。最低でも週に二日は入浴しているが、本人の希望で入浴している人は少ない。	○	入浴が好きな人と、嫌いな人がハッキリしているため、本人の希望だけでの入浴は難しい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その人に合った対応をして、安眠できるように努めている。消灯時間は無く、各々自由に過ごしていただいている。(昼夜逆転しない程度)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の得意な事、やりなれた事を把握し、役割にして頂いており、意欲を持って出来る様に支援している。台所・畑仕事など、残存能力を十分に発揮していただいている。何もしないで寝てばかりの人もいるが、その人らしさも考慮している。	○	職員の意見やアイデア不足により、一日をほとんど寝て過ごされている方がいるので、少しずつ役割を設けていきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を管理できる方には、家族の了解を得てお財布を持っていただき、管理できない方でも、買い物や社会性を持っていただけるよう、買い物や外出を楽しんでいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩など、本人の希望に添った外出をしている。食料品や衣類、お供え物などの買い物も、希望もしくは定期的に行なっている。ドライブやお茶にも、気分転換に繋げるため、利用者の状態に合わせて出掛けている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が希望すれば家族と相談し、個別の外出を支援している。季節毎の行事には全員で参加している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を置いている利用者がいる。家族の了解のもと、電話を利用できるようにしている。年賀状の購入などの支援をしている。居室に電話を持たない方でも、館内の電話を使用し連絡を取れるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間などは定めておらず、家族や友人・知人が気軽に訪問できるように穏やかな雰囲気作りに努めており、お茶の提供などを行っている。また一緒に食事をできるよう声がけもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルファイルを作成し、いつでも観覧できるようにしている。日々の生活の中で、職員同士がお互いのケアのあり方について意見交換している。カンファレンスでの学習会も行っているが、理解できているか否かは個人差がある。	○	身体拘束はしていないが、怪我の危険性のある方に対してスピーチロックを行う事があるので、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、改善していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、外に出たいときには出る事が出来る様に心がけている。チャイムやセンサーは、あくまで気付きの部分で使用しており、安全面での配慮である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、職員は全員で見守りを行なっている。掃除やシーツ交換で職員が動いている時にも、フロアには必ず一人は残り見守りをしている。夜間、職員はフロアから居室の出入り口が見えるところに居て、起きてきたときにすぐに対応できるようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁やはさみは、職員が少なくなる時間の前に片付けている。利用者一人一人の状況に合わせて、危険物の取り扱いをしている。刃物を使用する際は、必ず職員もそばで見守り一緒に作業を行なっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状況に合った事故防止に取り組んでいる。事故が起こった際は、事故報告書を作成し、職員全員で再度起こらないように努めている。マニュアルを作成し職員に配布してある。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	何度か訓練を行って、マニュアル等を作成しているが、定期的には行っていない。	○	四ヶ月、または半年に一度のように定期的に取り組んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災については、年に二回利用者と一緒に避難訓練を行なっている。日中、夜間を想定し、2ユニットの職員で対応できる方法を常に検討している。	○	地域の方との合同での訓練は行っていない。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人一人のリスクマネジメントを考え、家族と話し合い、自由に安全に生活していただけるように配慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状態を職員は把握しているので、少しでも状態に変化があれば、すぐにバイタルチェックをして、現状を職員全員で把握し、必要時受診に繋げている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬ファイルを作成しており、一人一人の内服薬の内容を、職員がすぐにわかるようにしている。服薬の際には、間違いなく服薬できている事の確認の為、飲み込みまで見守りしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	繊維の多い食材を使用するよう心掛けている。家事や体操、歩行訓練などで体を動かし、自然な排便を促しているが、自然排便が困難な人に対しては下剤や坐薬など使用している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食毎に歯磨きの声掛けを行なっている。昼食後には必ず職員が介入し、歯や舌の汚れをきれいに除去しているが、今現在は全員ではない。歯科医往診による定期検査の実施。	○	全員の口腔ケアを実施したいが、拒否の強い方も居る為、特定の方は難しい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日チェック表に一日の食事・水分摂取量を記録しており、バランスの修正に努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は手洗いうがい等、感染予防に努めている。外出後の利用者や、家族・来館者にも声掛けを行い、手洗いうがいを徹底している。マニュアル作成し、職員に配布している。また館内の消毒などを定期的に行なっている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫の食材は、職員がその都度確認・点検を行い、早めに使う食材などのチェックをし、使用しているまな板・包丁・布巾はその都度消毒し、衛生を保っている。		職員・利用者で共用している食器類も、洗浄後熱乾燥を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	道路に面しているところに花壇を作ったり、玄関前にプランターを置き、明るいイメージを作り、玄関にはベンチを設置し、気軽に使用し会話などを楽しめる雰囲気作りをしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた食事を提供している。旬の食材を多く取り入れる工夫をしている。照明は暖色を使用している。オープンキッチンの為、調理の音や洗物の音などがリビングに聞こえ、生活感を感じる事ができる。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外に面した大きな窓のそばに、三人掛けソファを設置し、くつろげるスペース(パーソナルスペース)を作っている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具などは自宅から馴染みの物を持ち込まれている。利用者の今までの生活スタイルを変えず、その人の好みに合わせている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度は毎日把握・記録し、利用者の体調に合わせた配慮をしている。換気には常に気を配り、匂いがこもらないようにしている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	物干しは利用者の作業のしやすいものを使用している。浴室は利用者の状態に応じ、椅子の場所を移動するなど、安全に入浴できるように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人一人の認識レベルに変化があったときに、カンファレンスを行いどう対応すべきかを話し合っている。常に自立支援を心がけている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭にテーブル・椅子を設置し、外でのお茶などを楽しめるスペースを確保している。建物横に畑を設け、利用者が気軽に作業出来る様にしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 ・毎月、家族へ本人の一ヶ月の様子や